

学会誌原稿執筆要領

1. 学会誌刊行の目的

本学会誌は教育におけるコンピュータ利用の領域、そしてそれらに隣接するデータベース、人工知能、認知科学、教育心理等の領域における理論、方法論の発展、および実践論の普及のために、会員の独創的な研究成果の発表、および会員の意見発表、討論、情報交換の場を提供することを目的として刊行する。

2. 学会誌原稿の種類

1) 研究論文

1-a) 原著論文

研究、開発、検討の結果をまとめたものであり、新規性、信頼性が高いもの。あるいは、多くの研究を独自の視点でまとめ、将来の研究分野の方向性を示したものであり、新規性、信頼性が高いもの。教育実践を伴う評価に基づく高い有用性の提示は要求されないが、研究の位置づけが関連研究との比較検討により明確になっていること。

1-b) 実践論文

情報システム・機器を利用した教育実践の結果をまとめたもので、その仕組みや条件が明確に記述され、汎用性の高い知見や方法が客観的な形式で導出されており、有用性、信頼性が高いもの。あるいは、情報システム・機器利用教育に関わるデータを包括的にまとめたもので、有用性、信頼性が高いもの。高い新規性は要求されないが、研究の位置づけが関連研究との比較検討により明確になっていること。

1-c) ショートノート

研究の動機、方法、結果などの技術的な点が明確に記述されており、新規性、信頼性があるもの。原著論文のような研究の位置づけ、他の関連研究との比較検討などに関する記述は要求されない。

1-d) 実践速報

情報システム・機器を利用した教育実践の結果をまとめたもので、その仕組みや条件が明確に記述されており、有用性、信頼性があるもの。実践論文のような研究の位置づけ、他の関連研究との比較検討などに関する記述は要求されない。

2) 寄稿原稿（コミュニティ・プラザの一部）

2-a) 国際会議報告

本学会に関連の深い国際会議の様子や研究の動向などを読み物的な文体で気軽に紹介したもの。

2-b) 世界の窓

海外での研究室での交流を通して感じたことや、在日外国人研究者が感じた母国との違いなどについて読み物的な文体で気軽に紹介したもの。

2-c) 博士論文紹介

本学会に関連の深い研究分野で、1年程度以内に博士の学位を取得した研究者の研究内容を紹介したもの。

2-d) 研究プロジェクト紹介

本学会に関連の深い研究分野で、進行中あるいは1年程度以内に終了した研究プロジェクトの内容を紹介したもの。

3) 依頼原稿

3-a) 解説

ある主題や技術について、その現状、動向、将来の見通しを一般の会員にわかりやすい形で明確に解説したもの。

3-b) コミュニティ・プラザ（2-a～2-c以外）

技術解説、論壇、用語解説、読者の声、研究室紹介、書評など、会員にとって有用な情報。

3-c) その他、会員に有用な関連記事

3. 論文投稿の条件

1) 投稿者は原則として本会会員に限る。但し2名以上の連名で投稿した場合は、そのうちの少なくとも1名は本会会員であること。

2) 投稿された論文が、投稿者あるいは連名者が執筆した論文で定期刊物（国内外の学術雑誌、商業雑誌、大学・研究所紀要等）や単行本、ならびにこれらに準ずる媒体に投稿中あるいは既公刊（電子媒体での刊行を含む）のもの、実質的に内容が同一もしくは主要部分が類似している場合は二重投稿と判断し、原則として論文審査の対象としない。ただし、投稿者あるいは連名者が執筆した以下の刊物物は、二重投稿の判断の対象とはしない。

(a) 研究会論文、大会予稿集掲載論文、国際会議予稿集掲載論文、技術報告

(b) 卒業論文、修士論文、博士論文

(c) 科研費などの研究報告書

(d) 本学会のショートノートや実践速報として掲載された論文（投稿論文を原著論文または実践論文の種別で投稿する場合に限る）

(e) その他、編集委員会が認める刊物物

- 3) 編集委員会が二重投稿と判断した場合、採録された論文の取り消しを含め罰則を科す場合がある。
- 4) 投稿論文には、他の著作物から内容を引用して説明することができる。その場合、著作権法第32条に従って引用し、本執筆要領「5. 執筆の要領」の「参考(引用)文献」の表記に従うこと。
- 5) 本学会に論文を投稿中もしくは論文の採録決定後に、実質的に内容が同一あるいは主要部分が類似した論文を他の学会に投稿してはならない。
- 6) 投稿原稿には、以下の内容を含むカバーレターを付与すること。
 - (a) 論文タイトル
 - (b) 著者名
 - (c) 論文カテゴリ
 - (d) 論文の要約と論文の意義(任意)
 - (e) 論文書式の確認
 - (f) 倫理的事項の確認
 - (g) 二重投稿に関する事項の確認
 - (h) 利益相反に関する事項の開示

4. 原稿の取扱い

- 1) 掲載原稿の著作権については、原則として本学会に帰属するものとする(教育システム情報学会著作権規程を参照のこと)。著作権が所属機関にある場合などで、本学会に帰属することが困難な場合は申し出により協議する。このとき著者は、本学会による掲載原稿の出版を可能とするための措置を講じなければならないものとする。
- 2) 投稿論文については、担当編集委員、査読委員の審査に基づき、編集委員会で次のいずれかを決定する。
 - a. 採録: 投稿原稿のまま掲載
 - b. 条件付き採録: 掲載に必要な要件を満たさない部分を指摘し、修正要件を満たした場合にのみ掲載
 - c. 返戻: 掲載の水準に至らないか掲載要件を満たしていない論文として、掲載せず著者に戻す
- 3) 寄稿原稿、依頼原稿については編集委員会で閱讀し、掲載の可否を決定する。
- 4) 投稿された原稿は原則として返却しない。

5. 執筆の要領

- 1) 原稿の構成は、次の順序とする。

原著論文, 実践論文: 表題, 著者名, 概要, 本文, 参考文献, (付録)

ショートノート, 実践速報: 表題, 著者名, 本文, 参考文献, (付録)

なお, 原著論文, 実践論文については, これらの後に著者紹介(顔写真を含む)を掲載する。ショートノート, 実践速報については著者紹介を掲載しない。

- 2) 標題: 日英両文で書くこと。
- 3) 著者名: 氏名, 所属, それらに対する英文名称を添える。
- 4) 概要: 原著論文, 実践論文, 解説には, 論文の概要(Abstract)を英文150ワード以内でつける。また, その下にキーワードを5つ程度書くこと。
- 5) 本文: 投稿論文の本文は日本語で記述する。章・節・項, 等の見出しをつけて読みやすくし, それぞれ1 2 3..., a b c...の順に区別する。

(例)

1. …………… 第1章
 - 1.1 …………… 第1章第1節
 - 1.1.1 …………… 第1章第1節第1項
 - (1) …………… 細別項目の第1段
 - (a) …………… 細別項目の第2段
 - ①……………
 - ②……………
 - ③……………
 - (b) …………… 細別項目の第2段
 - (2) …………… 細別項目の第1段
 - 1.1.2 …………… 第1章第1節第2項

- 6) 参考(引用)文献: 記述内容に直接関連のある文献は, 主文中における該当箇所の肩上の()内に番号を示す。以下に書籍と雑誌の場合の例を示す。

(例)

- (1) 山田太郎, 鈴木花子, 中村二郎: “数学教育用eラーニングの実現”, 教育システム情報学会誌, Vol. 51, No. 11, pp. 1021-1028 (2021)
- (2) 佐藤一郎, 高橋千代: “知的CAIシステム”, 日本教育情報出版社, 東京(1995)
- (3) Palmer, A. D. and Ryan, N.: “Learning Process and Learning Management Systems”, McGraw Hill, New York (1975)
- (4) 教育システム情報学会: “学会誌投稿のご案内”, <http://www.jsise.org/journal/subguide.html> (参照2013.12.31)

外国参考文献の書き方ルールは, 次のとおりである。
 ・単行本, テクニカルレポート等のタイトルはkeywordの最初の文字を大文字で書き, 雑誌に記載

された論文名は最初の文字だけ大文字にする。また、タイトルはダブルクォーテーションマーク“ ”で囲む。

- ・英文著者名は姓を先に書き、4名以上のときは、3名までを書き、他は et al. とする。
- 7) 付録：長い数式の誘導、装置、計算機についての説明などの詳細が必要なときは、付録にしたほうがよい。
- 8) 図表：そのまま印刷されるので、明瞭に書く。図および表は、論文全体を通じて通し番号をつけ、図のタイトルは下欄に、表のタイトルは上欄に表示する。写真は図として扱い白黒のものを原則とする。
- 9) 制限枚数：原稿 A4 判の用紙を使用し、横 24 字、縦 41 行× 2 段組みの書式で、刷り上がりイメージにできるだけ近い状態で印刷して投稿のこと。図表は原稿の後にまとめて添付してもよい。刷り上がりページ数の標準ページ数は、図表を含めて以下のとおりとする（原著論文、実践論文については著者紹介も含む）。標準ページ数を超えると、別刷代が急速に高くなるので注意されたい。原著論文、実践論文として投稿する場合、ページ数が 12 ページ以上になる場合には、ページ数超過の理由書（形式は任意で構わない）を提出すること。理由書を基に編集委員会で審議した結果、投稿を認めない場合もある。ページ数超過の理由書がない場合は投稿を受付けないので注意されたい。また、ショートノート、実践速報の場合、7 ページ以上になる場合には採録されないので注意されたい。なお、ページ数を大幅に超過するからといって、1 編とすべき内容を複数編に分けて投稿することは認めない。

原著論文	8 ページ以内
実践論文	8 ページ以内
ショートノート	4 ページ以内

ただし、7 ページ以上のものは掲載しない。

実践速報 4 ページ以内

ただし、7 ページ以上のものは掲載しない。

解説 8 ページ以内

経験の広場 4 ページ以内

国際会議報告 1 ページ以内

世界の窓 1 ページ以内

研究プロジェクト紹介 1 ページ以内

- 10) その他：文体は、“…である”調とし、学術用語は文部科学省の規定があればそれに従うこと。外国名は外国綴りのままとし、ブロック書きで書く。また、最終原稿については、編集委員会がワープロ版（テキストファイル）を要求することがある。

6. 投稿方法

- 1) 電子投稿システムを利用して投稿を行うこと。
- 2) 初めて電子投稿システムを利用する場合は、はじめに利用者用 ID の発行手続きを行うこと。
- 3) 投稿論文は印刷イメージに近い書式で PDF ファイルとして作成し、アップロードをすること。
- 4) 論文種別、表題（和英）、著者名、連絡先、関連分野、キーワード、和文概要（500 字以内）などの必要な情報を入力すること。
- 5) 紙媒体による投稿は受け付けない。

7. 採録原稿について

別刷については、著者校正の際、同封される申込書に希望部数を記入して申し込む。全ての採録原稿において、最低 100 部の別刷購入を義務とする。頁数と別刷数との価格表を下表に示す（下表以外の場合は、編集委員会で判断する）。

部数 ページ数	100 部	200 部	300 部
1～2	18,000 円	36,000 円	54,000 円
3～4	24,000 円	42,000 円	60,000 円
5～6	30,000 円	48,000 円	66,000 円
7～8	36,000 円	54,000 円	72,000 円
9～10	66,000 円	90,000 円	114,000 円
11～12	102,000 円	132,000 円	162,000 円
13～14	174,000 円	204,000 円	234,000 円

カラー印刷については、1 ページあたり以下の金額を追加する。

部数	100 部	200 部	300 部
追加金額	46,500 円	48,000 円	49,500 円

8. 原稿の送付および問い合わせ先

教育システム情報学会編集事務局

株式会社国際文献社

教育システム情報学会 編集事務局 担当：長澤

住所：〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19

電話：03 (5389) 6492 FAX：03 (3368) 2827

メールアドレス：jsise-edit@bunken.co.jp

（最終改訂日：2015 年 2 月）

研究論文 カテゴリー名称の一部変更について

教育システム情報学会

2016年10月

教育システム情報学会では、教育・学習のためのシステムに関する理論、方法論の発展とともに、実践論の普及を目的として、学会誌を年4回、英文誌を年1回発行しております。このたび、学会誌および英文誌の研究論文カテゴリー名称を一部変更することになりました。四つの研究論文カテゴリーのうち「原著論文」を「一般論文」に改名します。理論と実践を共に重視する本学会の考え方をより明確に反映することを意図しており、他の三つのカテゴリー名称は変更ありません。学会誌 Vol. 35, No. 1 (2018年1月発行)、英文誌は Vol. 17, No. 1 (2018年1月発行) より適用されます。

なお、四つの研究論文カテゴリーの査読ポリシーはこれまでどおりで変わりません。

現行	新名称
研究論文 (Research Paper)	研究論文 (Research Paper)
<u>原著論文 (Original Paper)</u>	<u>一般論文 (Regular Paper)</u>
実践論文 (Practical Paper)	【変更ありません】
ショートノート (Short Note)	
実践速報 (Report on Practice)	

※ () 内は、英文誌における名称

この変更に伴い、目次と本文のタイトルページに表記されるカテゴリー名称は以下に変わります。

○学会誌

目次のカテゴリー表記	タイトルページのカテゴリー表記
一般論文	研究論文
実践論文	研究論文
ショートノート	研究論文 (ショートノート)
実践速報	研究論文 (実践速報)

○英文誌

目次のカテゴリー表記	タイトルページのカテゴリー表記
Regular Paper	Research Paper
Practical Paper	Research Paper
Short Note	Research Paper (Short Note)
Report on Practice	Research Paper (Report on Practice)

以上